名簿No. 3

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

平仄式	作詩日
仄起式	平成二八年八月一五日

名前 牛山 知彦

詩題	起句	承句	転句	結句
金港驟雨	風○	鷗○	雷○	夏●
	満●	飛○	聲○	夜●
	船○	穹○	遠●	爽●
	旗○	昊●	近●	涼○
	映●	水●	須○	夢●
（歌韻）	港●	雲○	臾○	自●
	波◎	過◎	雨●	多◎

読み下し文

金港の驟雨

風満つ船旗　港波に映じ

鷗飛ぶ穹昊　水雲過ぐ

雷声遠近　須臾の雨

夏夜爽涼として夢自ずから多し

語註・典故・作詩メモ

穹昊…おおぞら
水雲…水上にでる雲
遠近…遠い所と近い所、あちらこちら
須臾…しばらく、少しの間

その他のメモ

名簿No. 6

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

詩題	起句	承句	転句	結句
初秋閑詠	梧○	霎●雨	閑○夜	剪●燈
	桐○	雨●跳	夜●鳴	燈○牀
	一●	跳○珠	鳴○蛩	牀○上
	葉●	珠○午	蛩○秋	上●臥
	散●	午●除	秋○聽	臥●書
（魚韻）	人○	熱●除	可●聽	看○書
	居◎	除◎聽	聽●書	書◎看

語註・典故・作詩メモ

平仄式	平起式
作詩日	九月五日
名前	岡嶋 宣昭

初秋閑詠

梧桐一葉散人の居
霎雨珠を跳ばせて午熱を除す
閑夜鳴蛩秋聴く可し
灯を剪りて牀上臥して書を看る

その他のメモ

名簿No. 11

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

詩題	起句	承句	転句	結句
憧憬尾瀬	望○	花○	日●	秋○
	山○	草●	來●	天○
	風○	可●	煩○	景●
	爽●	憐○	忙○	趣●
	湿●	一●	少●	旅●
灰韻）	原○	面●	時○	心○
	徊◎	開◎	忘●	催◎

語註・典故・作詩メモ

読み下し文

憧憬尾瀬

山を望み風爽やかに湿原を徊る
花草は可憐に一面に開き
日來の煩忙を少時忘れさせる
秋天景趣に旅心を催す

その他のメモ

尾瀬を実際には訪れたことはないが、TV番組で何度も尾瀬と周囲の山々の映像を見て一度は行ってみたいと憧れている。と云うことで、私の尾瀬の心象風景を元に読んでみた。

作詩日 H28・9・4

平起式

名前 武田 一郎

2010.01.17 第1版

No 12

結			転			承			起			題	平起式【陽】韻 名前 辰巳佳樹
微	○	△	庶	●	△	簷	○	△	炎	○	△	消夏雑詩	
風	○	○	湧	●	●	鐸	●	●	威	○	○		
一	●	△	黒	●	△○	無	○	☆	如	○	△		
掬	●	●	雲	○	○○	聲	○	○	爍	●	●		
慰	●	●	日	○	○●	終	○	☆	送	●	●		
心	○	○	雨	●	●○	日	●	●	斜	○	○		
腸	○	◎	急	●	●●	長	○	◎	陽	○	◎		

読み下し文								
消夏雑詩	えんいやくがごとくしゃようをおくる	炎威如爍送斜陽	えんたくこえなくしゅうしつながし	簷鐸無声終日長	こいぬかわくばくうえをわかめ、はくうきゅうなるごとき	庶湧黒雲日雨急	びふうにさくりしんきゅうをなすごとき	微風一掬慰心腸

名簿No. 13

神漢連　九詩期会　詩箋　【七言絶句】

詩題	起句	承句	転句	結句
寄横国大家政教育学会（尤韻）	清○	學●	如○	未●
	麗●	家○	今○	踏●
	女●	問●	功○	展●
	媧○	政●	績●	開○
	黌○	卅●	八●	宜○
	舎●	春○	州○	共●
	頭◎	秋◎	秀●	求◎

作詩日　平成二十八年九月二十九日

名前　原田　睦夫

読み下し文

横国大家政教育学会に寄す

清麗たる女媧　横舎の頭
家を学び政を問いて三十春秋
如今の功績　八州に秀でるも
未踏の展開　宜しく共に求めるべし

語註・典故・作詩メモ

平成元年、保土ヶ谷区常盤台の横国校舎に同大家政科卒業生六百名が参集し、横浜国立大学家政教育学会が結盟された。

女媧　天地開闢のころ、混沌とした大地を修復し、黄土を丸めて人間を作ったという伝説上の女神
奥平卓著「漢文の読み方」（岩波ジュニア新書）
黌舎　横国大の「横」には「まなびや」の意がある。横舎

その他のメモ

本詩は神漢連二十記念号20頁窪寺先生「祝辞」を参考とした（盗作？

名簿No. 19

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

詩題	起句	承句	転句	結句
中華街	元○	漢●	幾●	中○
	来○	友●	度●	華○
	此●	相○	辛○	魅●
	地●	団○	酸○	力●
	多○	不●	盛○	万●
（真韻）	欧○	撹●	菜●	民○
	人◎	信◎	業●	臻◎

作詩日	平起式
二八年九月六日	

名前
三浦 昭二

読み下し文

中華街（ちゅうかがい）

此（こ）の地元来欧人（おうじん）多（おお）し
漢友相団（かんゆうあいあつ）まり信（しん）を撹（みだ）さず
幾度（いくたび）の辛酸（しんさん）菜業（さいぎょう）盛（さか）んなり
中華（ちゅうか）の魅力万民（みりょくばんみん）を臻（あつ）む

語註・典故・作詩メモ

中華街は当初、安政六年の横浜開港に伴い、外国人居留地として造成され、欧米人も多く住んでいた。その後、関東大震災、日中戦争、大東亜戦争の厳しい時期を経て、中国人が多く居住し、現在では横浜市中区の中国人登録人口は六千名をを越え、同区登録の外国人人口の約四割を占めている。初めは、日用品雑貨、衣料品、食料品であった店が今では中華料理店が主で、五百店を超えている。

その他のメモ

名簿No. 21

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

平起式

詩題	起句	承句	転句	結句
初秋雑感	炎 ○	澄	愉	四
	威 ○	氣	尽	時
	溽 ●	天	朱	変
	暑 ●	高	明	転
	治 ●	景	当	寂
（真韻）	清 ○	色	倦	寥
	晨 ◎	新 ◎	怠 ●	頻 ◎

作詩日 九月六日

名前 三並 哲治

読み下し文

初秋雑感

炎威溽暑 清晨に治まる
気は澄み天高く 景色新たなり
愉しみ尽す朱明 当に倦怠
四時の変転は寂寥頻りなり

語註・典故・作詩メモ

真夏もやっと過ぎ、秋を感じてホッとしているが夏バテきみで、季節の変わり目は何となくさみしいものだ。詩に表現が十分にできておりません。

その他のメモ

名簿No. 22

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

詩題	起句	承句	転句	結句
夏日偶成	扁○	湖○	澄○	黄○
	舟○	畔●	水●	昏○
	白●	炎○	魚○	小●
	日●	天○	跳○	飲●
	着●	垂○	無○	渡●
（真韻）	馴○	赤●	釣●	頭●
	津◎	綸◎	果●	巡◎

語注・典故・作詩メモ

扁舟・・・・小舟
馴津・・・・なれた渡し場
綸・・・・釣り糸
徒頭・・・・渡し場のあたり

その他のメモ

読み下し文

夏日偶成

白日　扁舟　馴津に着須す
炎天の湖畔に　赤綸を垂らす
水は澄み　魚は跳ね　釣果無し
黄昏に　小飲　渡頭を巡る

作詩日　平成28年9月13日

平起式

名前　森谷正彦